

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|------------|---|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 戦後、川というものがどう変わってきたかという環境問題について、いろいろ反省をすることが、これからの計画を立てる上で一番大切だと思う。 自然再生計画の委員に本当に自然を知っている人を加えないと、きちっとした再生計画ができないと思う。 | 自然再生計画の策定にあたっては、川の変化あるいは川の変化が自然環境に与えた影響に着目し、計画づくりを進めています。 「木曾川上流自然再生検討会」では、河川工学だけでなく、河川生態、鳥類、哺乳類、魚類、昆虫類、植物を専門とする委員の方々のご意見を伺いながら検討を行っています。 また、自然再生検討会の詳細な資料につきましては、木曾川上流河川事務所のホームページ、もしくは、事務所で閲覧が可能ですので、ご覧頂けると幸いです。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 河原の部分については随分書いてあるけれど、川の中については書かれていない。 | 今回、第5回ふれあいセミナーでは、主に今後の整備の内容について説明をさせていただきました。川の中の状況については、第1回・第2回木曾川上流自然再生検討会に資料がありますので、詳細な資料につきましては、木曾川上流河川事務所のホームページ、もしくは、事務所で閲覧が可能ですので、ご覧頂けると幸いです。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 湿地帯をつくろうということで行われた河道掘削後に湿地帯やワンドが出来つつあり、魚や植物も増えてきていると思う。 今後、河床掘削はとにかく深く掘り下げれば良いという前提だけでなく、このようなことをあちこちでつくってほしい。 また、揖斐川河道掘削のワンドは残してもらった事もある。今後も地域住民を立ち合わせ意見を聞いて欲しい。 支流牧田川の瀬切れが進んでいる。生態系の面からすると大変問題も多い箇所だと思う。治水を進められる中で配慮と、地元への説明や、現状を見る場を設けて欲しい。 | 河道掘削等の改修にあたっては、流水を安全に流すための工事に合わせて、ワンド等の水際湿地など多様な環境が形成されるよう配慮していきます。今後も、地域住民の皆様のご意見等を踏まえながら、良好な河川環境が保全・形成されるよう努めていきます。 牧田川につきましては、毎年瀬切れ等による河川環境の課題があります。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 鮎が小さくなったという話があったが、木曾川のダムがあって、砂礫河原は再生しない。砂礫河原の問題は、河川毎によっても違うのではないか。出来ること出来ないことの区分けが必要ではないか。 | 砂礫河原の問題は、木曾三川共通の課題となっています。河道掘削工事にあたっては、砂礫河原にも配慮して施工していきます。 |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|------------|--|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>自然再生計画はいつからいつまでの計画か教えて欲しい。 また、やることが沢山のっているが行程表を付けて欲しい。 揖斐川水系については、床固や堰、瀬切れということで、魚がだめになっているという話がありますが、もし今そうであれば、上流のダムからよその川へ水路をつくって水を送るのは逆行と思う。 トンボ池に新境川からパイプで導水してはどうか。井戸は無駄ではないか。</p> | <p>自然再生計画は、当面の整備の方向性についてとりまとめるものです。また、自然再生計画の中では詳細な行程表は記載しません。 揖斐川本川・根尾川については、H15年度から当事務所が管理する床固について、魚道の整備を実施してきておりH21年度で一連完成し、床固の遡上が可能になる予定です。 根尾川、牧田川の瀬切れについては、課題であると認識しています。 トンボ天国の水涸れ対応については、新境川からの導水についても検討項目の一つとして考えていきます。</p> |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>【自然再生の整備メニューについて】 国の自然再生計画であれば、国のレベルの計画にふさわしい内容にすべきです。計画列挙されている整備メニュー①～⑤は、実際の木曾川などに存在する課題に比較して、極めて優先度の低い項目です。 <優先度の高い課題の内一例をあげれば> ※現在木曾川の場合、馬飼頭首工の魚道は、ウナギの稚魚が遡上できません。その理由は、特定の魚種（アユ・サツキマスなど遊泳速度の速い魚）しか遡上できない構造で「シラスウナギ」などは遡上できません。 堰の下流で川鵜の格好の餌になったり、上流で豊富な採餌が出来ず、成育の機会を失う天然のウナギ資源の損失は、数百トン／年にも及ぶ膨大な量で、抱卵した成魚を海に返せない機会損失は資源の枯渇にもつながり大きな環境問題です。 ※昭和50年台まで、アユの友釣り漁場として全国的にも有名で、多くの友釣り客の訪れた美濃加茂市内の木曾川で、近年は昭和30年代比10%程度の天然アユの遡上はあるものの、殆ど成長できず、今は釣り人の姿がありません。 この直接原因は、主として以下の3項です。 (イ) アユの主食となる珪藻の貧弱化で、この要因として最も大きいものは、流域に連続して出来たダム湖より、せせらぎが減少し、水の活性度（水に溶け込む酸素量など）の低下の影響が最も大きいものと考えられます。 (ロ) 珪藻は、高水位時、土砂の流下で起きる川底の研磨が、良質の珪藻の牧場となるが、土砂の流下が少なく藻・草などが繁殖して珪藻の繁茂出来る面積が、著しく減少している。 (ハ) 珪藻は、水と太陽によって繁茂するが、上流部のダム湖の濁水・揚水型発電ダム湖等の長期にわたる濁水などによって日光が遮断され、流芯（水深の深い箇所）に良質の珪藻が繁茂できず、アユの棲める有効面積が激減している。 ※この様な川の事象を正しくすることが、再生を始める第一歩です。</p> | <p>河川環境整備の優先順位の考え方は、 ・現存するが劣化している河川環境や、喪失した河川環境の再生を行う。 ・希少種が生息し、かつ環境劣化の進行が著しいなど、早急な対応が必要な箇所を優先的に実施。 ・優先度が低い箇所については、調査等監視を継続し、必要に応じて保全又は再生の対策を講じる。以上のように考えております。</p> <p>上記の3点を基に、希少種保護などを急ぐ必要があり、木曾川北派川のトンボ池等の湿地環境の再生、木曾川左岸中流部などでワンド等水際湿地の再生、揖斐川・根尾川における河川の連続性確保（H21完了）を優先して施工していきます。また、治水対策（改修工事、維持管理工事）においても河川環境に配慮した工事を実施していきます。</p> |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--------------------------|---------|------------|--|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>【自然再生検討会（6名）の委員について】</p> <p>自然の動植物の目線がない？広い流域の現場をしらない？自然の川（現場）を知るものとの討論会でもやれば、メンバーに不足のものが明確になるとと思います。</p> <p>木曾三川の再生検討会などに、自然の動植物の目線を持つ者を入れないと本当に河川環境の再生に有効なものが顕在化されません。</p> <p>※自然再生の言葉・経緯</p> <p>昭和48年「環境六法」の中で、「人間が自然に係わる基本的な国の考え方を示している」を受け、平成14年自然再生推進法では、自然に係わる行政の積極的な役割・施策と、その責務にも触れている。木曾川上流自然再生計画は、この流れの一環と理解しています。川を再びよみがえらせる為には、失ったもの・変わったものを可能な限り顕在化して、対策・手立てには優先順位をつけ、実施するのは世の常識です。これをしないと血税の無駄遣いになります。</p> <p><無駄遣いの典型的な一例></p> <p>美しい「山河を守る災害復旧方針」の考え方を示すところで、「コンクリートのない川づくり」「コンクリートが見えない川づくり」の表現があります。このような川を人間の目線で作っても魚は喜ばない。川づくりの規範にするものが、川の生態的機能を知らぬところで創られると、県・地方の事業で大きな無駄を生むこととなります。</p> | <p>「木曾川上流自然再生検討会」では、河川工学だけでなく、河川生態、鳥類、哺乳類、魚類、昆虫類、植物を専門とする委員の方々のご意見を伺いながら検討を行っています。また、木曾三川ふれあいセミナーなどでも、地域の方々からいただいた意見を自然再生計画に反映させていこうと考えております。</p> <p>また、優先順位につきましては、現存するが劣化している河川環境や、喪失した河川環境の再生を行うこととし、希少種が生息し、かつ環境の劣化が著しいなど、早急な対策が必要な箇所を優先的に進めていきたいと考えております。</p> |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>【川づくりの位置付け】</p> <p>※山の一滴～海まで、この流域を通して河川環境を（国交省又は環境省）一元的に管理するのが一番好ましい。</p> <p>「今の体制の中で何が出来るのか」ではなく、必要なことを成すためには組織の壁の弊害も乗り越え、どのような仕組み・体制・手順が必要か・・・の発想で物事に取り組む必要があります。</p> | <p>ご指摘のとおり、木曾三川の中流部は国土交通省、上流部は岐阜県で管理を行っています。</p> <p>自然再生計画は流域全体の皆さまの意見をいただき策定した「河川整備計画」を基に策定します。</p> <p>関係する行政とのさらなる連携が必要であると認識しています。</p> |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--------------------------|---------|------------|--|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>「自然再生計画」ですが現況把握や課題設定、計画・構想など大枠はよくわかりました。が、具体的な計画や再生実行のことが今ひとつわかりにくいと感じました。</p> <p>原案説明ということで今は無理でも段階を踏んで具体的な説明等を行うと”意思表示”されることで河川管理者の意欲が伝わり理解（期待）と共感が高められると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に対する国、県、市町等の行政の役割、推進するための組織化 ・住民に理解と協力を期待する具体的な事柄 ・年次、地点等が入った行程計画の開示予定 ・目標数値等が入った計画、評価方法の開示予定 etc <p>5回目ということでしたがその辺が見えない住民参加者の苛立ちを感じましたが。</p> | 自然再生計画の策定にあたっては、よりわかりやすい計画づくりに努めていきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 身近な点の自然再生計画は理解できたが、源流から一体となる取り組みも考えていただきたい。(ex:流砂系の一貫化) | ご指摘のとおり、土砂の減少等、流砂系に関わる課題は、流域全体を対象とした重要な課題であると考えています。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | 牧田川の瀬切れ対策ならびに魚道整備はどのように考えていますか。 | 牧田川の瀬切れや床固により連続性の課題については、河道計画を検討するなどしていきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 自然再生計画について | <p>自然再生計画の目標が何を言っているのか理解できない。木曾川らしい自然環境とは何なのかわからない。それをどうするのかわからない。どうやって自然環境を保全していくのか不明。</p> <p>南派川は私の子どもの頃から水が流れていないのでいまさら流す必要はあまり感じない。138タワーの公園のために流すのでしょうか。</p> <p>30～40年前に比べて川の水はきれいになっており、環境も改善されています。ただ、昔はホタルがたくさんいたようなので、ホタルがいるような環境にすることを目標にしてもらいたい。</p> <p>自然再生計画にオオキンケイギクの事には何もふれていない。駆除するのをやめたのか。</p> | <p>自然再生計画の策定にあたっては、よりわかりやすい計画づくりに努めていきます。</p> <p>オオキンケイギクについては、特定外来種であり駆除・防除していかなければならないと考えています。木曾川上流河川事務所でも、鋭意努力してまいります。地域の方々の協力は必須と考えております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。</p> |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|--------------|---|---|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 河川改修について | 第1回のとくに申し上げたことが、全然どこにもない。大変残念だと思う。 今渡ダム下流左岸2kmぐらいは崩落の危険性がある。対応して欲しい。 | 木曾川水系河川整備計画にも記載がございますが、木曾川左岸68.4k~69.0kは今後、堤防+高水護岸整備を実施する計画になっています。 第1回ふれあい懇談会（平成18年7月16日）でいただいております石畳周辺の崩落については、施設管理者の可見市に伝えてあります。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 付箋紙 | 水辺共生体験館 | 河川改修について | 木曾川中濃大橋上流左岸「堤防危険」 | |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 特定外来魚対策について | 外来魚の捕獲駆除する方法で科学的な部分の支援はないか。 抜本的対策方法はないのか。 | 外来魚の駆除については、ダム湖（伊自良湖等）や小さい湖沼などについては実績があると聞いておりますが、河川などの流水区間における完全な駆除方法は確立されていないと聞いています。ただ、ブルーギルやオオクチバスは、支川流入箇所など流れが緩やかな箇所を産卵適地（水温が20℃を超える春ごろ、水深が浅い砂泥または砂礫底）としており、そこに移動してきた親魚を捕獲する手法や、産卵床に砂をかけて破壊する等の手法が局所的な対応ですが各地で実施されていると聞いております。 木曾三川において今年から、NPOや地域住民の方々が特定外来魚駆除活動を進めていただいております。このような活動が流域全体に広がるように協力していきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 特定外来魚対策について | もんどりの他に時期が限られるが、人工産卵床による駆除もある。 | 人工産卵床も有効な駆除手法です。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 特定外来魚対策について | 外来種対策は、国土交通省はじめ国策で多少お金をかけても良いのではないか | 外来種対策は関係機関や地域の皆様と協力を図りながら進めてまいります。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 【川づくりに対する・行政の姿勢】 ※市民に言わせる場から、市民の声を聞く場にすべきです。 市民の声を「ガス抜き」と称する・扱いは、手弁当で参加する市民を愚弄するもの（現）木曾上でも上層部にこの思想あり。 | ご意見承りました。木曾三川ふれあいセミナーは木曾三川の川づくりに関して地域住民の方々と行政が情報共有することを目的としています。そのため、いただいたご意見などは木曾川上流河川事務所のホームページで公表しています。また、ふれあいセミナーの開催手法も含めて、今後の参考にさせていただきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 【川づくり半世紀の反省会（仮称）の開催が必要です。】 山野を含め、河川流域で動植物と広く係わった人には、人間の行った種々の環境負荷が見えています。此を「川づくりに活かしたい」この想いが三川フォーラム初期には多くの参加者にあっただけだと思います。新政権の下、行政も川に対する従来の進め方を大転換すべきであると思えます。 | |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 意見を言いっぱなしになって、回答が全くないが、少しは納得する回答をすべきであると思えます。 | |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|--------------------------|---------|--------------|--|--|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 市民からの要求が多く出されているが、その具体化についての明快な回答がなされていない。できるものは答えて欲しい。 | ご意見承りました。いただいたご意見などは木曾川上流河川事務所のホームページで公表していますが、ふれあいセミナーの開催手法も含めて、今後の参考にさせていただきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | ふれあいセミナーは民主体で進めていけばよいとおもう。 | 木曾三川ふれあいセミナーは木曾三川の川づくりに関して地域住民の方々と行政が情報共有することを目的としています。ふれあいセミナーの開催手法も含めて、今後の参考にさせていただきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | もっと数字を使った具体的な図式がほしい。問題が大きすぎてわからない。テーマをしぼるべきだ。 | わかりやすい説明手法を検討したいと思います。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | ふれあいセミナーについて | 平日でも休日でもOKで要は時間をじっくりかけたいので、昼食や休みをはさんで議論したいし、役所と市民だけでなく俗に言われる学識経験者といわれるその筋の関係者も参加してもらい、司会者は第三者の立場でメディアの人をお願いしてはどうでしょうか。100意見あれば一つ二つは思いもよらない名案・妙案がでるものと信じています。今後の参考にして下さい。 | ご意見承りました。専門的なテーマの際は学識経験者の方をお招きするなど対応したいと思います。また、開催時期、開催場所、広報などを検討し、よりよい意見交換ができるようにしたいと思います。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | ワンド等の水際湿地の再生の課題は下流域でも背割堤のケレップ水制辺りで共通しています。ただ治水や利水の課題に比べると住民サイドの意識はたいへん低調です。そこで例えばこういう課題に絞り込んだ検討会や講演会など、官・学・民等がひとつになって研鑽することを重ねないと理解も盛り上がりも期待できないと思います。上下流のNPO相互でも個別の場所（地点）を想定して再生のあり方等について意見交換してみたいと感じました。 | ふれあいセミナーにより地域住民の皆様が川に関心を持つようになり、川づくりへの意見交換をすることが一つの目的であります。より効果的な会の開催を検討したいと思います。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 特定外来魚対策の報告は民（木曾三川フォーラムさん）がイニシアチブをとって具体的にフィールドワークとして取り組みを始められたことに対して、エールを送りたいし活動の必要性の説明にも共感しました。市町も全面的に支援されておられるとのこと力強く感じました。その上で（駆除作戦をより効果的にするために）国や県レベルでないとできないような対策（例えば増殖させない調査や研究）が進んでいるのか聞きたいと思いました。 | 外来種や河川環境と外来種の関係について明らかになっていることは限られていますが、シナダレスズメガヤを洪水営力によって消失させるための水理条件や、ハリエンジュ伐開後の萌芽抑制手法等が調査・研究されています。 |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|-----------|---|---|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 端的に言って、特定外来魚に向き合う国（及び広い地域）レベルでのコンセンサスが未だ得られていないと感じています。TVの釣り番組等では時々バスフィッシングが流されているし一方漁協など被害を受けている立場から駆除促進を訴える番組が流れたりしています。広い国民の意識や利害の異なる立場の主張に対しては国はどうジャッジしているか今ひとつわかりにくいですね。 官民双方で時間をかけてでもきっちりと方向付けていくことが必要だと思います。 | 外来生物による在来の生態系や人の健康、農林水産業の被害を防止することを目的に、「外来生物法」がH17.6より施行されたことに伴い、特定外来生物として指定された種の個体（種子等を含む）又はその器官について、飼養、栽培、運搬、譲渡などが原則禁止されるとともに、野外に既に存する特定外来生物の防除が進められることとなりました。 河川管理者である国土交通大臣はオオキンケイギク等陸生植物5種の防除を行う主務大臣となっています。河川管理行為などに関する工事などを請け負う者に対して、できるだけ外来生物法の理解の促進に努めること。河川法に基づく占用許可を与える際（更新を含む）には、占用者に対してできるだけ外来生物法の理解の促進に努めること。河川管理行為等と連携した取組みを実施する市民団体等に対して、できるだけ外来生物法の努めることとしており、木曾川上流・下流事務所においては、直轄管内の特定外来種マップを作成し公表しております。（詳しくは事務所ホームページをご覧ください） |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 木曾川の流域に目を向けた地域交流であるとか、上下流の交流が大切であると考えている。 | ご指摘のように、河川を流域で考えることが重要と考えています。自然再生計画につきましては、木曾川上流河川事務所の管内での策定となりますが、木曾川流域全体で策定した「木曾川水系河川事業整備計画」をうけた検討を実施しています。 上下流の交流としましては、昨年、源流シンポジウムが木祖村で行われたり、NPO法人が主体となった上下流交流を行うなどして流域全体での情報交換等を行っています。また、地域住民が参加した川と海のクリーン大作戦など住民参加と連携による木曾三川を軸とした地域作りを行っていきたいと考えており、ご協力をお願いします。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 雄総川の事例報告されましたが、実態を知る上で非常によいのでこのような具体的なものもよい。 | 9月27日から10月25日までの毎週日曜日（計5回）にわたって木曾三川フォーラムさんが外来魚駆除活動を行います。実施報告をふれあいセミナーで行っていただく予定です。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 地域活動について | 平成20年8月30日に木曾の源流を訪ねる機会がありました。木祖村で開催の全国的な会議でした。村全体でお客をむかえる熱心な対応に感激しました。小学生から中学生と皆様が役を引き受けて村全体の一大イベントとして活動してみえました。 ◎要するに地域ぐるみの活動でないと一部の人でできるものではないと思います。木曾川の件でも一部の人は熱心ですが、多くの人にいかにお出向してもらえるか考えたいものです。 ◎木曾川上流事務所だけではムリで、国交省もだすべきだ。 | ふれあいセミナーでの意見交換により地域住民の皆様が関心をもたれるようになることが一つの目的であります。より効果的な会の開催のために検討したいと思います。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | 河道内樹木について | 近年河川内の樹林が目立つような気がします。伐開するにも費用がかなりかかるとは思いますが、背丈が低い時期に判断されれば、伐開費用も少なくてすむと思います。 | ご意見承りました。限られた予算の中で有効的な伐開手法を検討していきます。 |

第5回木曾三川ふれあいセミナーで頂いたご意見の一覧

| ご意見を頂いた方法 | 開催場所 | 分類 | 頂いたご意見 | 頂いたご意見に対する考え方 |
|---------------------------|---------|----------------------------------|---|---|
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | その他 | ご存じの事でしょうが名古屋市の新市長が導水路反対表明していますが名古屋市民の私らはパフォーマンスとらえています。何故ならば行き届いた社会整備にどっぴりつかっている自分自身こそ先人が後々の事を考え先行投資整備されたお陰であるとする必要ありと思います。導水の水をどのように使うか議論する段階だと思う。特に今日のように局地豪雨や干ばつの顕著な時代、色々な河川では水系毎にダムからダムへバイパスを作って有効利用の事例は多々あるが、流域をまたぐバイパスこそ今後求められる水の有効利用方法であると思います。ルート沿川では1次産業（労働力集約型）果樹などの農業に適した土地が沢山あるが、水の運用がままならないため開拓されないと思います。果実こそ今後岐阜県のブランド輸出品になると思います。 | ご意見承りました。子どもたちのためにも、将来を見据えた事業を地域の皆さんと共に考え、実施していく必要があります。今後の参考にさせていただきます。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー ご意見用紙 | 水辺共生体験館 | その他 | 外来魚の話が長い。身内のお話は適当にして欲しい。駆除できないのに無駄なことをしてよこんでいる。自己満足のお話しはほどほどにしてください。 | 確かに、これらの活動で特定外来魚を完全には駆除することは、なかなか困難です。しかし、外来魚の駆除について、行政としてはなかなか事業化することができないため、このようなNPO等の活動が大切でありまして、このような活動や意識をどんどん広げることにより達成されるものだと思っていますので、決して無駄や自己満足とは考えていません。 |
| 第5回木曾三川ふれあいセミナー 会場での発言 | 水辺共生体験館 | その他 (木曾三川フォーラムの特定外来魚駆除資料について) | 調査された貝について、ドブガイの記載があるがカラスガイ（学名）にして欲しい。（聞こえが良くないため） | ご意見承りました。（木曾三川フォーラムより） (後日調べたところ、ドブガイはイシガイ科ドブガイ属、カラスガイはイシガイ科カラスガイ属で違う生物とわかりました。) |